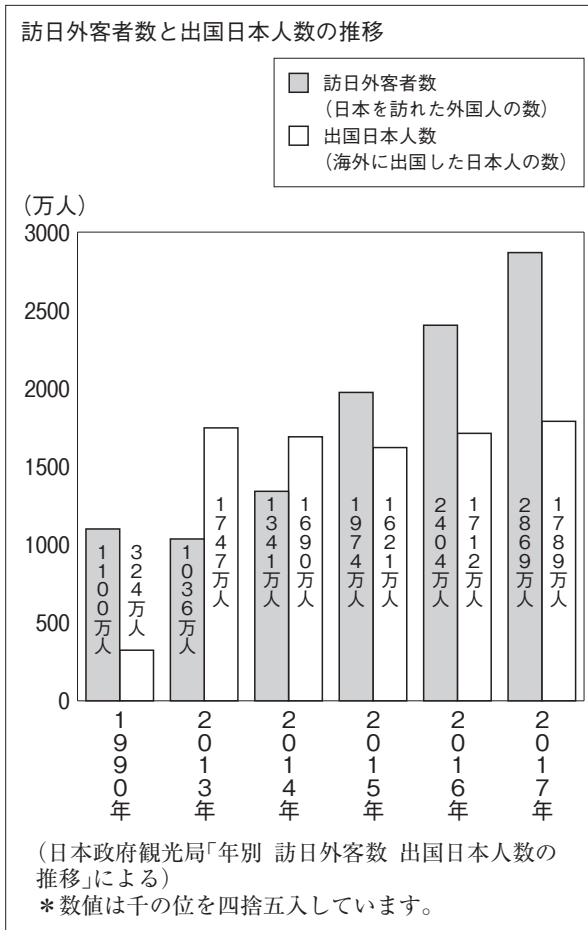


15 作文(1)

例題

1 次の資料を見て、あとの問いに答えなさい。



(1) 資料の中で気づいたことや気になったことをメモしましょう。(箇条書きでよい。)

ねらい

作文 ▼資料を参考に自分の意見を書く。
▼作文の推敲・原稿用紙の使い方。

(1) のことについてどう思うか、考えを書きましょう。

◆ 作文を書くときの注意

資料を見て意見を書く作文の場合、次の点に注意して書きます。

① 資料の中で特徴的な項目を探す。

数値がほかと極端に違う項目や意外な項目を取り上げると、書きやすいでしょう。

② 書くことを決め、文章の構成を考える。

設問で段落ごとに書く内容が指示されている場合はそれに従います。特に指示のない場合は「起↓承↓転↓結」型か「序論↓本論↓結論」型で書くと、わかりやすくなります。

③ 原稿用紙の正しい使い方に従って書く。

④ 作文を推敲する。

主語と述語が整った文章になっているか、誤字はないかなど、書いたあとには読み返す習慣をつけましょう。



練習問題 1

1 次の資料は、中学一年生のある学級で放課後の主な過ごし方について調査を行った結果をまとめたものです。この資料を見て、あとの「条件」にしたがって作文を書きなさい。

(質問)

- 1 あなたは放課後を主にどのように過ごしていますか？
- 2 1で答えた放課後の過ごし方に、満足していますか？
- 3 あなたは放課後をどのように過ごしたいと思っていますか？

(アンケート結果)

1	部活動……………77.4%	塾や習い事……………18.2%
	自宅で過ごす……………2.3%	友達と遊ぶ……………1.2%
	その他……………0.9%	
2	満足している……………58%	
	満足していない……………30%	
	どちらともいえない……………12%	
3	部活動……………48.3%	塾や習い事……………13.8%
	自宅で過ごす……………10.8%	友達と遊ぶ……………25.4%
	その他……………1.7%	

〔条件〕

- ① 二十三行以上二十六行以内で書くこと。
- ② 二段落構成とし、第一段落には資料を見て気づいたことやわかったことを書き、第二段落には第一段落の内容をもとに資料を見て考えたことや思ったことなどを書くこと。
- ③ 題名は書かずに、一行目から本文を書くこと。
- ④ 数値を書くときは、次の例にならって書くこと。

例 30% 77・4%

〈作文を書く前に、次の点をメモにまとめましょう。〉
 (1) 資料を見て、気づいたことやわかったことはどんなことか。〈簡条書きでよい。〉

(2) 資料を見て、考えたことや思ったことはどんなことか。

(3) 放課後の過ごし方について、どう思うか。

15 作文(1)

- ⑤ 淡水にすむ魚。
- ④ 残念な結果に脱力する。
- ③ 鮮魚を調理する。
- ② 扇を広げる。
- ① 力を尽くす。

() () () () ()

- ⑩ 途中であきらめる。
- ⑨ 活況を呈する。
- ⑧ 特徴を調べる。
- ⑦ 大きく跳躍する。
- ⑥ 幼稚な行動をとる。

() () () () ()

- ⑮ 貧富の差がある。
- ⑭ 車がカイチヨウに進む。
- ⑬ 議案をカケツする。
- ⑫ 何度も道をオウフクする。
- ⑪ エキタイをこぼす。

() () () () ()

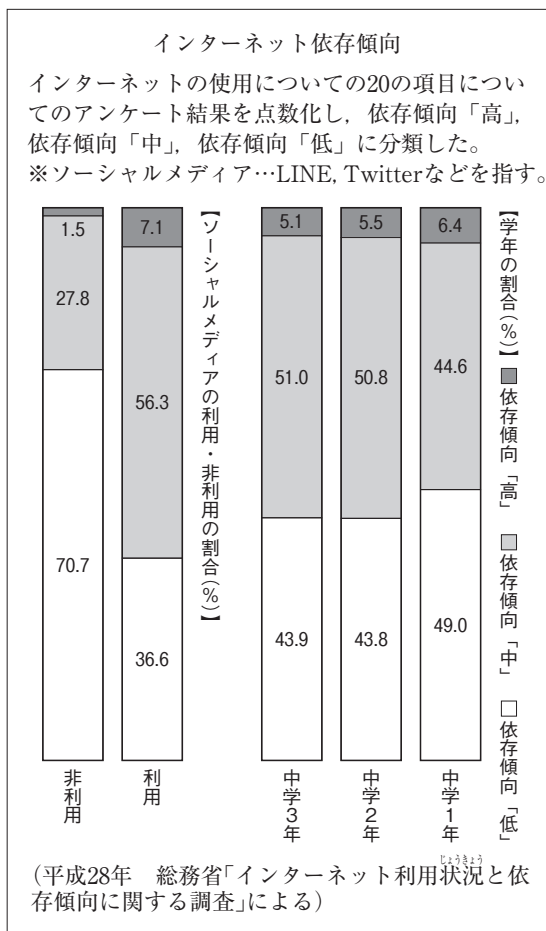
漢字の読み書き15

26行

23行

練習問題 2

1 次のグラフは、中学生を対象に行った「インターネット依存傾向」についての調査結果を示したものです。これを見て、あとの〔条件〕にしたがって作文を書きなさい。



〔条件〕

- ① 三十行以上三十四行以内で書くこと。
 - ② 二段落で構成すること。
 - ③ 第一段落には、グラフを見て気づいたことを書くこと。
 - ④ 第二段落には、第一段落をふまえて、インターネットにどうかかわっているべきかについて、あなたの考えを書くこと。
 - ⑤ 数値を書くときは、次の例にならって書くこと。
- 例 $\boxed{44} \cdot \boxed{6} \%$
- ⑥ 題名は書かずに、一行目から本文を書くこと。

〈作文を書く前に、次の点をメモにまとめましょう。(箇条書きでよい。〉
(1) グラフを見て、気づいたことやわかったことはどんなことか。

(2) インターネットにどうかかわっていくべきだと思うか。

(3) (2)のように考えたのはなぜか。

34行

30行

作文
作文の推敲・原稿用紙の使い方



◆作文の推敲

- 1 主題（言いたいこと）が十分に書けているか。
- 2 読み手にわかりやすい構成になっているか。文と文、段落と段落のつながりは適切か。
- 3 言葉遣いは間違っていないか。文体（常体「だ・である」か敬体「です・ます」か）は統一されているか。
- 4 文法的小おかしところはないか。

※特に、主語・述語の関係、副詞の呼应などに注意する。
5 漢字やかなづかい、送りがない誤りはないか。脱字はないか。句読点や符号の使い方は適切か。

6 原稿用紙の使い方は適切か。

◆原稿用紙の使い方

- ① 本文の書き出し：一字分空けて書き出します。
- ② 段落・改行：段落が変わるときは改行し、本文の書き出しと同じように一字分空けて書き出します。
- ③ 会話・引用：会話文は、ふつう「」でくくり、行を改めて書き出します。なお、会話の最後の句点（。）とかぎ（）は、一マスに入れてもかまいません。
- ④ 句読点・符号：句点（。）・読点（、）や、「」『』（ ）〈 〉や？ ・！などは、原則としてそれぞれ一字分使います。ただし、— や… は、ふつう二字分使います。句読点や、「」などが行の初めにくる場合には、前の行の最後のマスに文字と一緒に入れることが多いです。

1 次の作文を読んで、あとの問いに答えなさい。

わ	た	し	は	い	つ	も	心	が	け	て	い	る	こ	と	は	「	誠	実
」	で	あ	る	こ	と	だ	。	ど	ん	な	と	き	も	誠	実	で	あ	り
い	と	思	い	ま	す	。												
誠	実	で	あ	る	こ	と	は	人	と	し	て	対	切	な	こ	と	だ	と
考	ら	ら	だ	。														

- (1) この作文を推敲したところ、いくつかの直すべき点が見つかりました。
- (2) この作文で一箇所だけ敬体になっている部分を書き直さなさい。

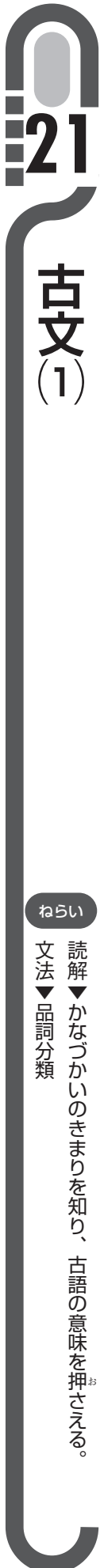
② ———— 線の主語・述語が対応するように直さなさい。

・わたし いつも心がけていることは「誠実」であることだ。

③ 漢字と送りがなの誤りを一つずつ探し、正しく書き直さなさい。

—	↓	—	↓
---	---	---	---

- (2) この作文には、原稿用紙の使い方が適切でない部分があります。(1)①③の点と合わせて、作文を正しく書き直さなさい。



1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、讚岐の造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

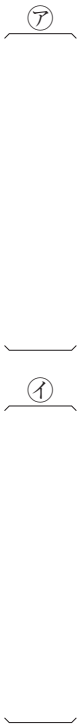
〔現代語訳〕

今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。名前を讚岐の造といった。(ある日のこと)その竹林の中に、根元の光る竹が一本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光っている。それを見ると、背丈三寸ほどの人が、まことにかわいらしい様子で座っていた。

*1 翁〓おじいさん。

*2 三寸〓一寸は約三センチメートル。

問一 〈かなづかい〉 ……線⑦「いふ」、①「ゐたり」をそれぞれ現代かなづかに直して書きなさい。



問二 〈現代語訳〉 ———線①「あやしがりて」、②「いとうつくしうて」の意味にあたる部分を、現代語訳の中からそれぞれ書き抜きなさい。



ねらい 読解▼かなづかいのきまりを知り、古語の意味を押さえる。
 文法▼品詞分類

◎ 古文の読み方

古文には、歴史的かなづかいが用いられています。また、古語独特の言い回しもあります。語句の切れ目もわかりにくいので、音読を繰り返して、古文の表現に慣れましょう。

◆ 歴史的かなづかいのきまり

(1) 原則として、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と読む。

- ・かは↓かわ (川) ・あひだ↓あいだ (間)
- ・あふ↓あう (会う) ・うへ↓うえ (上)
- ・かほ↓かお (顔)

〔注〕ただし、複合語の場合は除く。あさ+ひ (朝日)〓あさひ

(2) 「ゐ・ゑ・を」は、「い・え・お」と読む。

- ・ゐる↓いる ・こゑ (声)↓こえ ・をかし↓おかし

(3) 「くわ・ぐわ」は、「か・が」と読む。

- ・くわし↓かし (菓子) ・きぐわん↓きがん (祈願)

◆ 古語・現代語訳

古文を読み解くには、古語について理解することが重要です。古語と現代語訳を対照して意味をとらえましょう。古語には、今では使われない言葉や、現代語と形が似ていて意味の異なるものがあるので注意しましょう。

- ・あはれ〓しみじみと心を動かされる。 ・ののしる〓騒ぐ。
- ・ありがたし〓めつたにない。尊い。 ・やがて〓すぐに。
- ・くちをし〓もの足りない。 ・かなし〓いとしい、かわいい。
- ・をかし〓風情がある。



2 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

① 五月ばかりなどに山里にありくいとをかし。② 草葉も水もいと青くみえわたたりたるに、うへはつれなくて草生ひ茂りたるを、ながながとたださまに行けば、③ したはえならざりける水の、深くはあらねど、人などのあゆむに走りあがりたる、いとをかし。

④ ひだりみぎにある垣にあるものの枝などの車の屋形などにさし入るをいそぎてとらへて折らむとするほどに、ふとすぎてはずれたるこそ、いとくちをしけれ。

⑤ 蓬の車におしひしがれたりけるが、輪のまはりたるに、近ううちかかりたるもをかし。

〔現代語訳〕

〔陰暦〕五月ごろなどに山里を(牛車に乗って)歩きまわるのは、とても趣がある。草の葉も水(の色)も、まことに青々と続いて見えるが、上は何ということもなく草が生い茂っているところを、そのままどこまでも一直線に進んで行くと、(その草の)下はなんとも言えぬ(美しい)水が、深くはないが、(たまたま)いて、(従者の)男などが歩くとしぶきがあるのは、実に気持ちがいい。

(そうしたところを過ぎて道の)左右両側にある(民家の)生垣にある木の枝などが、(自分の乗っている)車の屋形などに(ひっかかって)入ってくるのを、急いでつかまえて折り取るうとするうちに、すうっと車が通り過ぎて、はずれしまったのは、まったく。

蓬の、車に押しつぶされたのが、車輪の回転するにつれて、ついそばまで(よい香りを漂わせながら)やってくるのもおもしろい。

(清少納言『枕草子』)

* 屋形＝舟や牛車などの上に設ける、家の形をした覆い。

問一 〈かなづかい〉 ～～線⑦「をかし」、①「とらへて」をそれぞれ現代かなづかいに直して書きなさい。

⑦ _____
① _____

問二 〈古典常識〉 ———線①「五月」の異名(別名)を次のうちから一つ選び、

- 記号で答えなさい。
- ア 如月
 - イ 皐月
 - ウ 文月
 - エ 霜月

問三 〈現代語訳〉 ———線②「つれなくて」にあたる言葉を現代語訳の中から

書き抜きなさい。

問四 〈現代語訳〉 ———線③「くちをしけれ」の現代語訳にあたる _____ にあて

- はまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア 言いづらいものだ
 - イ 残念なものだ
 - ウ 楽しいものだ
 - エ 恐ろしいものだ

問五 〈文脈〉 ———線④「うちかかりたる」とありますが、何がうちかかるの

ですか。古文の中から書き抜きなさい。

問六 〈古語〉 ———線⑤「深くはないが」にあたる言葉を古文の中から書き抜きなさい。

問七 〈内容理解〉 筆者は山里での体験をどのように感じていますか。筆者の

心情を表している言葉を古文の中から三字で書き抜きなさい。

3 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

雪のいと高うはあらで、うすらかに降りたるなどは、いとこそをかしけれ。^①
 また、雪のいと高う降りつもりたる夕暮れより、端近う、おなじ心なる人二
 三人ばかり、火桶をなかにすゑて物語などするほどに、暗うなりぬれどこなた
 には火もともさぬに、おほかたの雪の光いと白う見えたるに、火箸して灰など
 かきすさみて、あはれなるもをかききもいひあはせたるこそをかしけれ。^②

〔現代語訳〕

雪がそう高くは積もっていないで、うっすらと降ったのなどは、非常に趣深いものである。

また、雪が非常に高く積もった夕方から、家の上がり口に近いところで、よく気の合う女房二、三人ほどと火鉢を中に置いていろと話をしているうちに、暗くなってしまったけれど、部屋のほうには灯火もつけないでいるが、外一面に積もっている雪の光がたいそう白く反射しているので（それに明るさを感じ、雪景色をながめつつ）、火箸で灰などをかきまわし、もてあそびながら、話にしても、愉快な話にしても、互いに話し合ったりするのは、実におもしろいものである。

（清少納言『枕草子』）

問一 〈かなづかい〉 ……線⑦「すゑて」、①「おほかた」をそれぞれ現代かな

づかに直して書きなさい。

問二 〈現代語訳〉

きなさい。

線①「いと」にあたる言葉を現代語訳の中から書き抜

問三 〈内容理解〉

線②「をかしけれ」とありますが、筆者はどのような情景を趣深いと言っているのですか。現代語訳を参考に答えなさい。

問四 〈現代語訳〉

から書き抜きなさい。

線③「おなじ心なる人」にあたる部分を現代語訳の中

問五 〈現代語訳〉

うちから選び、記号で答えなさい。

ア つまらなくて退屈するような

イ 残酷で聞くにたえないような

ウ ばかげていて腹立たしいような

エ しみじみと心を動かされるような

ポイント 「あはれなる」にあたる部分です。「あはれなり」は、現代の言葉とは違う意味で使われることが多いので注意しましょう。

漢字の読み書き21

21 古文(1)

- ① 江戸の文化を知る。
- ② 近郊の町に住む。
- ③ お香をたく。
- ④ 豪快に笑う。
- ⑤ 予算を削減する。

- ⑥ 脂が乗る。
- ⑦ 紫外線を避ける。
- ⑧ 慈愛の心をもつ。
- ⑨ 指揮を執る。
- ⑩ 情け容赦がない。
- ⑪ 学業をオサめる。
- ⑫ 部屋をカス。
- ⑬ ショクイン室に入る。
- ⑭ セイジ家になる。
- ⑮ 機械をセツチする。

4 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

雪のおもしろうふりたりし朝、人のがりいふべき事ありて文をやるとて、雪のことなにもいはざりし返りごとに、「この雪いかを見ると、一筆のたまはせぬほどのひがひがしからん人のおほせらるる事、ききいるべきかは。返すがへす口惜しき御心なり。」といひたりしこそをかしかりしか。今はなき人なれば、かばかりのことも忘れがたし。

〔現代語訳〕

雪が A 降り積もった朝のこと、ある人のもとへ行ってやらねばならぬ用事があった、B をやった際、雪のことを何とも書いてやらなかった、その返事に、「この雪景色をどう見るかとも、一筆もおっしゃらないような、無風流な方のおっしゃることを、どうして承知できましょう。ほんとうに、情けないお心です。」と言ってよこしたのは趣があった。この人は今はこの世に亡い人なので、これぐらいのことでも忘れられない。

(吉田兼好 『徒然草』)

5

最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者から「今はこの世に亡い人」へ。
- イ 「無風流な人」から筆者へ。
- ウ 筆者から「ある人」へ。
- エ 「ある人」から筆者へ。

問四 〈現代語訳〉

線③「おほせらるる」にあたる言葉を現代語訳の中から書き抜きなさい。

問五 〈内容理解〉

線④「口惜しき御心」とありますが、どのような点が「口惜しい」のですか。現代語で書きなさい。

問一 〈かなづかい〉

線⑦「いはざりし」、①「返すがへす」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

⑦ _____

① _____

問二 〈現代語訳〉

線①「おもしろう」の現代語訳にあたる A にあてはまる言葉として、最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 心が晴れ晴れとするように
- イ 心ひかれる様子で
- ウ おもしろおかしく
- エ 笑わせようとするように

問三 〈内容理解〉

線②「返りごと」とは、だからだれへの返事ですか。

〔 _____ 〕

問六 〈心情〉

線⑤「今はなき人なれば、かばかりのことも忘れがたし」とありますが、筆者は、この「なき人」に対して、どのような気持ちを持っているのですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の過失を許してくれなかったことを恨んでいる。
- イ 趣のあるとがめを受けたことをなつかしんでいる。
- ウ 早くに亡くなってしまったことを残念がっている。
- エ 風流に縁のないまま亡くなってしまったことをあわれんでいる。

問七 〈現代語訳〉

線 B にあてはまる言葉を漢字二字で書きなさい。

〔 _____ 〕

5 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

ゆく川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある、人と栖すまと、またかくのごとし。

たましきの都のうちに、棟むねを並べ、甍いぶかを争へる、高き、いやしき、人の住まひは、世々③を経て尽つきせぬものなれど、これをまことかと尋たづぬれば、昔ありし家はまれなり。あるいは去年焼けて今年作れり。あるいは大家滅おほいへほろびて小家こいへとなる。住む人もこれに同じ。所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二、三十人が中に、わづかにひとりふたりなり。朝あしたに死に、夕べに生まるるならひ、ただ水の泡あわにぞ似たりける。

〔現代語訳〕

いつもとうとうとゆく河かわの流れは絶えることなく、それでいて、もとの水ではない。流れのよどみに浮かぶ泡は、、いつまでもそのまま存在している例はない。この世に生きている人と住んでいる家とが、やはりこのようなのである。

玉を敷いたように美しく立派な京の町に、棟を並べ、たくさん建ち並んでいゝる、身分の高い人、低い人の住居は、長い時代を経てもなくなならないものだけれど、このことが真実かどうかと調べてみると、昔から存在した家は珍しい。あるものは去年焼失して今年建て直している。あるものは大きな家が没落ぼつらくして小さな家になっている。住んでいる人もこれと同じである。場所も変わらず、人の数も多いけれど、昔会ったことのある人は、二、三十人の中で、わずかに10ひとりふたりである。どこかでだれかが朝死あさに、夕方にはまただれかが生まれ世のしきたりは、まったく水の泡そっくりである。

(鴨長明『方丈記』)

問一 〔現代語訳〕

線①「うたかた」、⑥「いにしへ」にあたる言葉を現代語訳の中からそれぞれ書き抜きなさい。

①

⑥

問二 〔現代語訳〕

線②「かつ消えかつ結びて」の現代語訳にあたるにあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア あつという間に消えて
- イ あつという間に生じて
- ウ 一方では消え、一方では生じて
- エ 同時に消え、同時に現れて

問三 〔現代語訳〕

線③「世々を経て」にあたる部分を現代語訳の中から書き抜きなさい。

問四 〔文脈〕

線④「あるいは去年焼けて今年作れり。」と対つひになっている一文を古文の中から書き抜きなさい。

問五 〔指示語〕

線⑤「これ」が指しているものを古文の中から三字で書き抜きなさい。

問六 〔内容理解〕

線⑦「ただ水の泡にぞ似たりける」とありますが、何が水の泡に似ているのですか。現代語訳の中から書き抜きなさい。